

赤城町宮田について

赤城町には、国の指定文化財が4ヶ所、県の指定が6ヶ所、市の指定が16ヶ所あります。赤城町は、赤城山に降った雨や雪が伏流水（湧き水）となって、良いお米ができたこともあり、文化財（文化）に精通したのではないかとされています。

赤城山は信仰の山と言われていて、自然の恵みを与えた地域です。この宮田も、宮中の田んぼと言われていて、非常に美味しいお米が獲れたので、宮田（みやだ）と名付けられたといわれています。

・地域の活動、協働、継続性から学ぶ

現在の会員数は111名、30歳未満の方が45人います。高校を卒業すると宮田を離れてしまう。外に出てしまうと中々戻りませんので、子ども達が大人になっても宮田のほたるを忘れられない取組をしています。

平成11年に、県から「畦道のせせらぎ事業」で補助金をいただき、ほたるの生息地に四阿と散策道を作りました。4ヘクタールの敷地をほたる公園というお話しもいただいたのですが、維持管理が難しいと考えるやめました。もし公園を作っていたらここまで続けていらなかったと思います。

・地域にある先導役

身近な暮らしの中でも、人の心を捉えるものは必ずあります。それは、きっとまちづくりの先導役となるでしょう。「先導」には、人の心を捉えて活動をするという意味があります。

「ほたる」もそのひとつだと思います。皆さんが住んでいる地域の中にも、独特な気候風土、自然、文化、伝統行事の中に、「先導」するものはきっとあります。

・多様な人の参加

我々は、女性部を作って活動しています。子ども達にも、総合学習や視察研修、水中生物体験学習会の活動等で、周知活動を行っています。

・行政と市民

特によそ者、若者、馬鹿者の活動がうまく地域を率先し、独特な気候風土、地域の多様性を、しっかり見据えた取組をやっています。赤城町では学校が3校なくなりました。集落単位で物事を考えていかないと、赤城町の中学校も無くなっていく運命にあります。渋川市は中山間地帯が多いので、人口の流出が早まります。そこを注意して見ていけば、行政と市民との関わりが見えてくるのではないかと思います。



・地域をどのように発展させていくか

地域の課題は住んでいる人でなければ分からないものが多いです。集落単位で将来像を考えると、良いアイデアが浮かんでくると思います。

日本全国必ず人口が減っていきますので、息の長い取組が必要です。20～30年のスパンで物事を考えていくことが大切です。

大きなところで吸収合併されると、地域の良さが見づらくなってしまふ。地域づくりに携わっている皆さんが、今ある価値に気づき、それぞれの良さを引き出してくれたらと思っています。

組織の運営ですが、我々は、年間目標を必ずひとつだけ立て、それ以上は立てません。それと、押しつけ

や強制はしません。社会参画というかたちで会員を募集して、活動してもらっています。

資金面は、会費と販売で賄っていますが、お金が無いから出来ないと言い訳せず、出来る方法を考えて、必ず行うようにしています。

物事を決めても中々チャンスは訪れませんが、1回は必ず来ます。そのチャンスを逃さずに活動を最大限に活かします。チャンスは何度も巡ってこないのので、何よりも1回

のチャンスを掴むことが重要なのです。

「宮田ほたるの里を守る会」より、当日の研修交流会の様子を撮影した動画を制作いただきました。
*参加した皆さんに配布しました。



ほたる生息地見学



ほたる生息地で、昆虫博士による「ほたるの生態」について説明後、ほたるを見学しました。

例年、ゲンジボタルは6月中、ヘイケボタルは6月中旬～7月下旬まで見ることができるとのことでした。

今回はヘイケボタルを見学しました。

